総合医学会報告

2022年シンポジウム：施設から必要とされる技術部門－医療の質と施設経営に携わる放射線技術部門－

診療放射線技師が担う医療の質の担保と施設経営－大規模病院の視点から－

谷 﨑　洋†

第76回国立病院総合医学会
2022年10月８日　於　熊本

IRYO　Vol. 77　No. 6（425－428）2023

要 旨　近年，数十年ぶりに放射線部門に関する法令改正が連続して実施され，放射線被ばく管理・放射線量管理の重要性が期待されている．これらの放射線管理業務は施設規模にかかわらず必須項目として遵守することが求められ，放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律では“職員を守るべく対応”として被ばく管理があげられ，医療法では“患者を守るべく対応”として診療被ばくの最適化と適正化があげられた．法令を遵守するためには，施設（病院）が主導となって解決していかなければならないが，大規模施設ほど管理業務量が煩雑になることは現場の声からも多く寄せられるところである．今回のシンポジウムを通じて，大規模施設における放射線管理業務の実態と問題点について共有し，合わせて放射線技術部門における医療の質の担保および施設（病院）経営に貢献できる組織作りについて，５年先および10年先を見据えた組織体制と機能の強化について検討する．

キーワード　被ばく管理，放射線量管理

はじめに

NHO埼玉病院（当院）は理念に「この地の人々の健康といのちそして安心のこころを守る」とあるように，安心安全な医療の提供を行い地域の皆様のよりどころとなるような地域密着型の施設を目指し経営を展開している．新館増設（2018年）により現在までに段階的に増床を行い，550床を有するNHOの中でも大規模病院として認識され，地域の医療連携のみならず３次救命救急病院として365日24時間体制で展開している．大規模病院における病院経営及び医療行為を行うために必要な放射線技術部門の業務効率化と医療展開について考える．

放射線技術部門が考える病院経営

われわれが病院経営で大切な考え方を一言で示すと“バランス”を保つことがとても重要と考える．両端に示す「医療安全・医療の質の保証」と「組織の効率化・収益の最大化」の“バランス”が健全な医療行為をすすめていく上で大変重要であり，どちらかのウエイトが重くなるとバランスが崩れ健全な医療行為が展開できなくなることが予想される．この“バランス”は大規模病院のみならず中小規模の

国立病院機構埼玉病院　放射線科（現所属　国立がん研究センター中央病院　放射線技術部）　†診療放射線技師
著者連絡先：谷﨑洋　国立がん研究センター中央病院　放射線技術部
〒104-0045　東京都中央区築地５－１－１
e-mail : hitaniza@ncc.go.jp
（2023年２月28日受付　2023年８月４日受理）
Quality Assurance of Medical Care and Facility Management Carried Out by Radiological Technologists : Perspective from a Largescale Hospital
Hiroshi Tanizaki. NHO Saitama Hospital（Current affiliation：National Cancer Center Hospital）
（Received Feb. 28, 2023, Accepted Aug. 4, 2023）
Key words：exposure management, radiation dose management